

「第1回指定管理者制度による県立志摩病院の運営に関する検討
会議」議事概要

日時：令和元年10月8日（火）

18：45～20：15

場所：三重県志摩庁舎 2階大会議室

【出席委員】

住民代表者：松井委員、山下委員

医療関係者：伊藤委員、中村委員、日比委員、楠田委員

福祉関係者：和田委員

自治体等関係者：阪本委員、永田委員

【事務局】

・三重県病院事業庁

加藤庁長、長崎副庁長 河北県立病院課長 ほか

・三重県医療保健部

地域医療推進課：松浦課長 ほか

【傍聴者】

3名

【議事概要】

(1) 事務局説明

- ・資料1 次期指定管理者指定にかかるスケジュール（予定）
- ・資料2 運営報告会及び関係団体等個別聴取での意見（まとめ）
- ・資料3 指定管理者制度による県立志摩病院の運営に係る検証
- ・資料4 次期指定期間における診療機能にかかる論点について

(2) 委員からの主な意見

- ・志摩市は南北に細長く、特に大王町・志摩町の住民にとって、県立志摩病院、志摩市民病院は欠かせない存在である。
- ・志摩市では高齢化が進み、若者は出産・子育ての環境を求めて流出していくため、人口減少が止まらない。
- ・重症の場合は伊勢赤十字病院のお世話にもなるが、ドクターヘリは昼間のみであり、道路事情は改善されたものの車での搬送には平均で1時間以上を要するため、志摩病院である程度治療してもらえるようになると大変ありがたい。
- ・住民には、病院の選び方、救急車の利用法など医療に関するさまざまな情報が不足している。
- ・全国的な医師不足の中、医師育成にはまだまだ時間がかかる。こうした中、志摩病院で高度医療（高度急性期）、小児・周産期医療などを完結させることは難しく、伊勢赤十字病院等との連携（必要に応じて医師の支援）が重要である。

- ・小児科の入院診療には4人程度の医師が必要と聞いている。住民の期待は理解できるが、診療の集約化が図られている中、志摩病院への医師の配置は困難である。
- ・医師不足の中で、IT化による遠隔診療など先端技術の活用も考えていく必要がある。
- ・医療関係者は、志摩病院での高度医療、入院を伴う小児・周産期医療の実施は困難であると理解しているが、問題は住民にどうやって理解してもらうかである。
- ・志摩地域出身者の三重大学医学部への入学者（地域枠B）が少ないため、病院事業庁や志摩市でも住民への制度周知など対策を考えるべきである。
- ・平成30年度以降、内科系医師の減員等により、入院・外来患者数が大幅に減っている。志摩病院（志摩地域の医療）が崩壊してしまわないか心配している。
- ・課題は明らかであり、内科系医師・外科系医師（特に整形外科）が足りていない。災害拠点病院であることをふまえると外科系医師が5名しかいないのは心もとない。
- ・地域医療構想や医療従事者の働き方改革の動向等をふまえると、次期運営において、これまでの指定要件をすべて踏襲する（満たす）のは厳しい。
- ・高齢化の進展により、今後は骨折や心不全、認知症の患者が増えていくと思われ、そうした住民ニーズに的確に対応していく必要がある。
- ・高度医療については、急性期に対応するよりは、術後のフォロー（リハビリ）など後方支援を強化した方がよいのではないか。
- ・小児救急については、小児科医師の確保が難しいため、総合診療医が協力する形で二次救急レベルまでに対応していただきたい。
- ・今後、若い世代が減っていくことを考慮すると、周産期医療を実施することは難しいのではないか。
- ・志摩病院で内科系救急を24時間365日実施していただいていることは非常に助かっている。今後も、可能なかぎりの対応をしていただき、必要に応じて三次救急病院との連携を検討していただけるとありがたい。
- ・志摩病院の外来患者を増やす方策は検討していく必要がある。
- ・志摩市（旧志摩郡）では、約35年前は出生数が600人を超えていたと思うが、現状は200人くらいであり、産科の運営には厳しい。志摩病院の体制としては、現状（婦人科のみ）で良いのではないか。
- ・医師の確保など診療体制が充実してきたことは大変ありがたい。一方で、本年4月に、内科系救急で一部受入制限や小児科外来で診療の非常勤化があった際は、住民から不安の声も寄せられた。医師を安定的に確保していただくようお願いしたい。
- ・精神外来は、予約が取りづらいため改善していただきたい。
- ・志摩病院への救急搬送割合は、平成20年頃（県直営）に60%を超えていたが、その後、医師の大幅な減員により35%程度まで落ち込んでいた。平成24年以降（指定管理者制度導入後）は徐々に回復し、平成28年に内科系救急で24時間365日の受入れが始まってからは、6

0%近くとなっている。一方で、小児については約85%を伊勢方面（伊勢赤十字病院等）へ搬送している。

- ・志摩地域における救急搬送件数は約4,400件であり、全国と同規模の消防（管轄人口5～6万人）の平均（約2,600件）と比較すると突出して多い。高齢化率の高さ、交通事情などが影響しているものと思われる。